

手をたずさえて

“小原田PRIDE”～自信と誇り

- 心身ともに健康で明朗な生徒
- 自主的に学習する生徒
- 責任を重んじ協調性のある生徒

令和3年7月 2日（金）発行
【発行責任者】郡山市立小原田中学校長 熊坂 洋



何気ない日常の一場面を切りとって考えてみると…

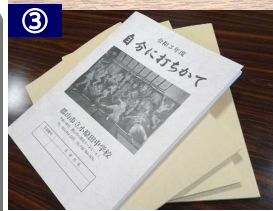
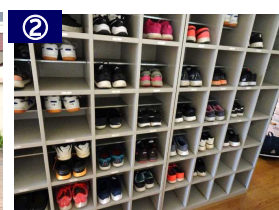
7月に入りました。1学期も残すところ授業日は12日です。（7月5日～20日）そして、今年度の4分の1が経過したことになります。今年度の本校の教育理念に『小原田PRIDE』という言葉掲げたということ年度初めに示しました。様々な大会やコンクール等において上位入賞することだけが『小原田PRIDE』につながるわけではありません。次のひとつの言葉をキーワードとして、何気ない日常の一場面を切りとりながら、『小原田PRIDE』の基本にあるものは何なのかを考えてみたいと思います。

『凡事徹底』（ぼんじてってい）

この言葉は、カー用品販売店として有名なイエローハットの創業者である「鍵山秀三郎（かぎやま ひでさぶろう）」さんが名付けた言葉です。その鍵山さんは、次のようなことを言っています。

どんな境遇にあっても、自分が人並み以下で人生を送っていいんだと思っている人は一人もいない。できれば人並みになりたい。なお欲を言えば、人並み以上になりたい。なろうことなら特別な存在になりたい。というふうな願いを持つ人間は少なくはない。『私なんかどうでもいいんだ』などと口で言っている人でも、その心の奥底には、できれば人に認めてもらいたい、という気持ちを強く持っている。

そうすると、その特別な存在になるためにはどうするか。何か特別なことをしないと、特別な人間になれないと思って、特別なことを探して歩く人がとても多いわけだが、世の中にそんな特別なことなんていうのはほとんど無くて、ごく平凡なことの積み重ねしかないのである。



- ①朝のあいさつ
- ②下駄箱の整理整頓
- ③『自分に打ちかて』等の毎日の提出物
- ④授業態度
- ⑤清掃への取り組み



この鍵山さんは、誰にでもできる掃除を徹底して行ったそうです。会社の車を洗いました。雨が降っても、雪が降っても毎朝車を洗いました。お客様から、あの会社の車はいつも綺麗だと評判になり、会社の営業成績が伸びたそうです。また毎朝、自宅周囲の清掃をしました。落ち葉を掃きました。草をとりました。少しずつ清掃範囲を広げました。それを見ていたある方が、東京の一等地であるその土地を譲ってくれました。それが会社の基盤になったそうです。

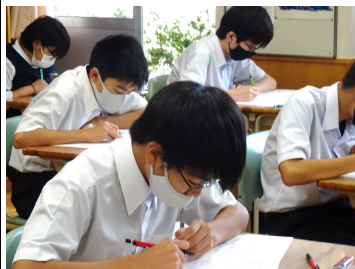
「当たり前のことを当たり前にやること。それを徹底して続けること。積み重ねていくこと。」
それが『凡事徹底』の意味です。当たり前のことを当たり前に徹底してやりぬくと、そこには当たり前ではない結果が生まれてくるのです。やがて、その積み重ねが他との大きな差となります。

あいさつをする。時間を守る。靴を並べる。荷物を整理整頓する。掃除をする。係の仕事をする。人の話を聞く。授業や部活動に真剣に取り組む。そして、相手を思いやるなど…まわりは本当に当たり前のことだらけです。新型コロナウイルス感染症対策も“今は当たり前こと”として位置付けることができると思います。特別なことができる人が偉いということでは決してありません。まずは、「**当たり前のことがしっかりとできる人間**」になってほしい。当たり前のことができれば、規律ある安定した生活が実現します。さらに、これらの基本ができていれば、例え成績や結果が伴わなくとも、その人や集団は周囲の人々により、心から讃えられる存在になれるのではないのでしょうか。そして、本校の中で、そんな人が多くなればなるほど、『小原田PRIDE』という言葉が輝きを増していくのだと思います。学期のまとめの時期に入りました。自分自身の日常を振り返ってみることも大切なことです。



学習コンテストに向けて

基礎学力の向上と家庭学習の習慣化を図るために、本校では年に2回『学習コンテスト』を実施します。第1回のコンテストは、7月7日（水）に国語、8日（木）に数学、12日（月）に英語が行われます。国語は漢字の読み書き、数学は計算、英語は単語のスペルなどについて、事前に配付されたプリントの問題から出題されます。6月29日から“学力向上週間”として、朝の読書の時間に問題練習を行っています。もちろん、家庭学習の中でも繰り返し問題を解いていく必要があります。「満点賞」（50点満点）、「優秀賞」（9割得点）には賞状が授与されます。11月の第2回で10点アップすれば「努力賞」となります。せっかくやるのだから手を抜かずベストを尽くしてほしいと思います。



ICT支援員の中村さん

郡山市からICT支援員として中村崇さんが配置されました。中村さんは週1、2日のペースで来校しています。ICTにかかわる授業支援・校務支援・環境整備支援・校内研修支援を行うことで、学校に効果的にICTを活用できる体制をつくることを目的に配置されています。先日、2年国語科の授業においても、タブレットのロイロノートの使い方について担当教員が支援を受けていました。今後様々な学習活動においてタブレット等のICT機器の活用が図られていきます。中村さんをどんどん活用していきたいと思います。

“人が車と同じ道路にいる限り…”

交通事故防止について

道をてくてく歩く子どもたちの目には何が映っているのだろう。何十年と続く本誌「こどもの詩」欄を眺めていると、散歩を題材にした作品にしばしば出会う。小鳥のさえずりを聞いたり、昆虫や野花を見つめたり、足元にくっついて離れない影法師をふしぎがる詩もある。

自分の影が前になったり後ろになったり／影が一人でさん歩しているみたいだね（小学3年男子）

きのう滋賀県大津市の空はよく晴れていた。お日様の下、小鳥やチョウや花や影法師に見とれた子もいただろう。保育園児の集団に車が突っ込んだ。幼い瞳にはあまりに凄惨な事故の景色である。園児13人と保育士3人が病院に運ばれた。このうち園児2人が亡くなり、1人が意識不明の重体となっている。血の痕と散らばった水筒が残される現場で女2人が逮捕された。一方が右折しようとしたところに、一方が直進して衝突し歩道に乗り上げたという。交差点でよくある事故にちがいない。

よくある、と書いてゾッとする。じつは散歩も安全ではないのだと。人が車と同じ道路にいる限り、解決をみない事故である。車社会の暗部だろう。

～讀賣新聞 2019年5月9日（木）朝刊「編集手帳」～

2年前、滋賀県での悲惨な交通事故が発生した後の新聞記事です。残念なことに、また心の痛む凄惨な事故が千葉県で起きてしまいました。今回の犠牲者は下校途中の小学校の児童達で、飲酒運転によるものでした。自分（達）がルールを守っていても、防ぎきれない事故もあります。新聞記事の中の「人が車と同じ道路にいる限り、解決をみない事故である。」という言葉に集約されています。心が痛みます。しかしながら、“自分の命は自分で守る”という意識を持ち続け、飛び出しや並列歩行・走行は絶対にしないなど、交通ルールを厳しく守っていく姿勢を決して忘れてはならないということを、今回の事故の大きな教訓としなければならないと強く思いました。我々教職員も含め全校体制で、再度“交通事故防止”について真剣に考え、交通ルールやマナーを厳守していきましょう！それが我々にできることだと考えます。

保護者の皆様へ

■ 6月26日（土）に予定していた授業参観を中止とした関係で、夏休みを前にしての大切な連絡事項も含めた各学年の『学年懇談会資料』を7月16日（金）に生徒に配付します。必ず目を通していただき、ご確認願います。

■ 1学期に実施できなかった授業参観につきましては、2学期に実施いたします。決定し次第、実施期日等をお知らせいたします。

■ 6月25日付けでホームページ及びマチコミメールによりお知らせしましたとおり、本市の新型コロナウイルス感染状況が危惧されているところです。夏休みを間近に控えている今、気を緩めるとなく、ご家庭と学校が連携して感染症対策に取り組む必要があります。ご家庭の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。



可憐に咲く紫陽花